

資料

- ① 構成メンバー
- ② 研究プロジェクト一覧
- ③ 協力研究者一覧
- ④ シンポジウム・セミナー一覧
- ⑤ 新規収蔵図書・資料
- ⑥ 電子化イベント一覧
- ⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学
ジェンダー研究所規則
- ⑧ 『ジェンダー研究』編集方針・
投稿規定
- ⑨ ジェンダー研究所ウェブサイト
プライバシー・ポリシー

【資料】①構成メンバー

【所長】

戸谷陽子(基幹研究院人文科学系・文教育学部教授)

《任期》

2021(R3)年4月1日～2025(R7)年3月31日

【専任教員】

申琪榮(ジェンダー研究所教授)

2015(H27)年4月1日～

大橋史恵(ジェンダー研究所准教授)

2018(H30)年9月1日～

【学内研究員】

棚橋訓(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2021(R3)年4月1日～2024(R6)年3月31日

小玉亮子(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2021(R3)年4月1日～2024(R6)年3月31日

石丸徑一郎(基幹研究院人間科学系・生活科学部准教授)

2021(R3)年4月1日～2024(R6)年3月31日

【特任講師】

嶽本新奈

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

【特任リサーチフェロー】

本山央子

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

【特任アソシエイトフェロー】

黒岩漠

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

【アカデミック・アシスタント】

稲垣明子

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

梅田由紀子

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

関根里奈子

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

滝美香

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

花岡奈央

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

和田容子

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

【客員研究員】

足立眞理子(お茶の水女子大学名誉教授)

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

【研究協力員】

板井広明(専修大学経済学部准教授)

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

平野恵子(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授)

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

佐野潤子(東京家政学院大学現代生活学部現代家政学科教授)

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

仙波由加里(一般社団法人ドナーリンク・ジャパン代表理事)

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

フランス・ローズ・ハートライン(JSPS 外国人特別研究員)

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

佐々木真理(実践女子大学教授)

2023(R5)年4月1日～2024(R6)年3月31日

ペトリス・フラワーズ(ハワイ大学マヌイ校教授)

2023(R5)年8月21日～2024(R6)年3月31日



所長 戸谷 陽子

基幹研究院人文科学系・教授

文教育学部言語文化学科英語圏言語文化コース

博士前期課程比較社会文化学専攻英語圏・仏語圏文化学コース

博士後期課程比較社会文化学専攻言語文化論領域

専門分野: 舞台芸術論、パフォーマンス研究、アメリカ演劇、文化政策、比較演劇論

所属学会等

日本英文学会

日本アメリカ文学会(東京支部評議員・編集委員)

日本アメリカ演劇学会(評議員)

日本アメリカ学会

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構(学位審査会専門委員会座長代行)

主な業績

《競争的資金》

- ・科学研究費基盤研究 C(課題番号:20K00385)「米国舞台・表象空間における日本人ストックキャラクターの系譜と展開」、2020 年度～2024 年度、研究代表者



専任教員(教授) 申 琪榮

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻(専攻長) ジェンダー論領域
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻
生活科学部生活社会科学講座

専門分野: ジェンダーと政治、比較政治学(東アジア)、フェミニズム理論、
#MeToo、クオータ制、男女共同参画政策

所属学会等 International Political Science Association, American Political Science Association

European Conference on Gender and Politics, International Association for Feminist Economics

日本政治学会、日本比較政治学会、日本社会政策学会、日本フェミニスト経済学会、
「女性・戦争・人権」学会(運営委員)

ソウル大学日本研究所『日本批評』、西江大学社会科学研究所『社会科学研究』、

釜山大学女性学研究所『女性学研究』、イギリス政治学会『Politics』、ECGP 学会誌『European
Journal of Politics and Gender』編集委員

『ジェンダー研究』編集長

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リ
ーダー育成型) 岩手大学『I.W.A.T.E. 1 in 3 女性リーダー職研究者倍増プラン』アドバイザー
ボード委員会委員長

主な業績

《論文、書評等》

申琪榮, 2024. 「派閥政治の核心——ジェンダー化された世襲がもたらしたもの」、『世界』 979 (March): 52-59.

申琪榮, 2023. 「世襲政治はどのように再生産されるのか——イェと男性ホモソーシャル・ネットワークに着目して——」『経済社会とジェンダー』第 8 巻、32-46.

申琪榮, 2024. 「第 10 章 半分の成功——韓国のクオータ制からの示唆」学術会議叢書 31『女性の政治参画を
どう進めるか』日本学術協力財団, pp. 157-166.

申琪榮, 2024. 「第 7 章 ハラスメント——働く者の尊厳が保たれる職場を」, 駒川智子・金井郁共編『キャリア
に活かす雇用関係論』, 世界思想社, pp.107-123.

申琪榮・三浦まり, 2023. 「対談: パリテ・アカデミーが開拓するトレーニング」, 三浦まり編『政治って、面白い!』
花伝社, pp. 262-280.

申琪榮, 2024. 「10-04 女性政党・政治スクール」『ジェンダー辞典』, 丸善出版

申琪榮, 2023. 「巻頭言「リプロダクティブ・ジャスティス(性・生殖・再生産をめぐる社会正義)」の視座を提案す
る」、『ジェンダー研究』26 号 p. 1-3

《学会報告/パネリスト》

Shin, Ki-young, Speaker at the Round Table on #MeToo Movements in East Asia, Association for Asian Studies
Annual Conference, Seattle, USA. March 13-16 2024.

《学会報告/パネリスト》

Shin, Ki-young, Discussant, Low Birth and Aging Society in Korea and Japan: What Kind of “Crisis? Association for Asian Studies Annual Conference, Seattle, USA. March 13-16 2024.

申琪榮、「日本の立法過程における 2 回のジェンダー・バックラッシュ——論点と課題」韓国日本学会第 107 回国際学術大会「東アジアのジェンダー・フェミニズムの現在」企画パネル(招聘あり)2024 年 2 月 16 日(韓国水原市、慶熙大学校 国際キャンパス)

《招待講演等》

- ・「7章ハラスメント」『『キャリアに活かす雇用関係論』を読んで・使う——ジェンダー視点を貫く授業』社会政策学会ジェンダー部会主催他 2024 年 3 月 2 日

《競争的資金》

- ・科学研究費基盤研究 B(課題番号:23H03654)「フェミニズム理論による新たな国家論の構築:ケア概念と安全保障概念の再構想から」、2023～2026 年度(研究代表者:岡野八代・同志社大学)、研究分担者

《企画運営国際シンポジウム》

- ・ジェンダー研究所主催国際シンポジウム「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」(2023 年 12 月 8 日)



専任教員(准教授) 大橋 史恵

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

文教育学部グローバル文化学環

専門分野: ジェンダー研究、国際社会学、中国地域研究

所属学会等 International Association for Feminist Economics

日本社会学会、関東社会学会、

日本フェミニスト経済学会(幹事会役員、『経済社会とジェンダー』編集長)

ジェンダー史学会、現代中国学会、中国女性史研究会

経済理論学会分野別ジェンダー分科会

主な業績

《共著書》

堀口正・大橋史恵・南裕子・岩島史編著『中国と日本における農村ジェンダー研究——1950・60年代の農村社会の変化と女性——』、晃洋書房、2024年。

《論文》

大橋史恵「人民公社化の下での家事・ケア労働——公共食堂と託児所を中心に——」、堀口正・大橋史恵・南裕子・岩島史編著『中国と日本における農村ジェンダー研究——1950・60年代の農村社会の変化と女性——』、晃洋書房、pp.20-35、2024年。

大橋史恵「植民地期香港における家事労働者と使用者のアクティビズム——境界管理のポリティクスに着目して——」、『国際ジェンダー学会誌』vol.21、pp.34-61、2023年。

《学会報告》

大橋史恵「植民地期香港における中国系家事労働者の移動と生存——「ケア」と「クィア」の交差に着目して——」、日本現代中国学会第73回全国学術大会共通論題「現代中国語圏におけるジェンダー規範の変遷」、神戸大学六甲台第2キャンパス、2023年10月14日。

大橋史恵 2023年度アジア政経学会大会自由応募分科会2「人民公社時期における中国農村女性と生活」、東京大学駒場キャンパス、2023年6月11日。(討論者)

《コラム・解説等》

大橋史恵「再生産領域のグローバル化」、ジェンダー事典編集委員会編『ジェンダー事典』、丸善出版、2024年1月、pp.246-247。

大橋史恵「ジェンダー研究の流れ(東アジア)(1)中国」、ジェンダー事典編集委員会編『ジェンダー事典』、丸善出版、2024年1月、pp.14-16。

大橋史恵「社会主義と女性」、山口みどり・弓削尚子・後藤絵美・長志珠絵・石川照子編著『論点・ジェンダー史学』、ミネルヴァ書房、pp.216-217、2023年6月。

《競争的資金》

科学研究費基盤研究B(課題番号:20H01468)「新興アジアにおけるIT-BPOの国際分業の成立とジェンダー」、2020～2023年度(研究代表者:堀芳枝・早稲田大学)、研究分担者

科学研究費基盤研究B(課題番号:23H00888)「日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究」、2023年度～2025年度(研究代表者:定松文・恵泉女学園大学)、研究分担者

科学研究費基盤研究C(課題番号:19K12603)「香港における移住女性の再生産労働力配置—「グローバル・シティ」のジェンダー分析」、2019年度～2023年度、研究代表者

科学研究費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化B)(課題番号:21KK0033)「人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー」、2021～2024年度、研究分担者



特任講師 嶽本 新奈

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

専門分野: 歴史学、歴史社会学、ジェンダー研究

所属学会等 ジェンダー史学会
総合女性史学会
歴史科学協議会
女性・戦争・人権学会
社会学研究会
日本フェミニスト経済学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析」(17 頁参照) / 「反公害 / 環境運動史におけるジェンダー分析」(17 頁参照) / 「『からゆきさん』にみる性・移動・再生産領域」(20 頁参照)
- ・ IGS セミナー 「『戦後』沖縄フェミニズムにおける『ホーム』概念の変容とその可能性」企画・コーディネーター・司会 (32 頁参照)
- ・ IGS 国際シンポジウム「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」総合司会(25 頁参照)
- ・ IGS-AIT 交流事業: 「AIT ワークショップ報告会」企画・コーディネーター・司会(55 頁参照) / IGS-AIT 交流事業: 「2023 年度 AIT ワークショップ実施報告書」編集担当(55 頁参照)
- ・ 担当セミナーのウェブサイト用報告書(各日本語・英語)の翻訳・監修
- ・ 『ジェンダー研究』編集スタッフ(60 頁参照)。主に特集、一般投稿論文担当。ほか『ジェンダー研究』編集刊行業務全般の統括
- ・ IGS 研究協力員研究報告会、企画・コーディネーター・司会(40 頁参照)ならびにウェブサイト用報告原稿作成。

主な業績

《著書・論文》

- 2023 「ある『からゆきさん』の語りからみる女性の経験とグローバル・ヒストリー」『ジェンダー史学』ジェンダー史学会、19: pp. 21-33。
- 2024 「コラム『からゆき』と『じゃばゆき』『くひと』から問うジェンダーの世界史 「ひと」とはだれか? ——身体・セクシュアリティ・暴力」大阪大学出版会、第 1 巻、pp. 247。

《共訳》

- 2023 『『戦争ごっこ』の近現代史』人文書院、第二章「紙の戦争」担当。

《書評》

- 2023 「書評・平井和子『占領下の女性たち——日本と満州の性暴力・性売買・親密な交際』」、「週間読書人」、10/13 号。
- 2024 「書評・広瀬玲子『植民地朝鮮の愛国婦人会——在朝日本人女性と植民地支配』」、「週間読書人」、3/15 号。
- 2024 「書評・新フェミニズム批評の会編『〈パンデミック〉とフェミニズム——新・フェミニズム批評の会創立 30 周年記念論集』」、「PRIME」明治学院大学国際平和研究所、47 号。

《学会報告・講演》

- 2023 『天草環境会議 40 周年への想い』、第 40 回・天草環境会議、2023 年 7 月 8 日(天草郡苓北町コミュニティセンター)
- 2023 『『からゆきさん』に／からみる性と権力』、東北アジア歴史財団主催・2023 年日本軍「慰安婦」被害者をたたえる日記念国際学術大会、2023 年 8 月 10 日(東北アジア歴史財団、韓国ソウル)

《他大学講演》

- 2023 明治学院大学「現代平和研究 2」ゲスト講義 10 月 20 日
- 2024 福岡女子大学「国際社会とジェンダー」ゲスト講義 1 月 9 日

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:23K11676)『『からゆきさん』にみる性・移動・再生産領域』、2023 年～2025 年度、研究代表者



特任リサーチフェロー 本山 央子

専門分野: ジェンダー研究、フェミニスト国際関係・国際政治経済学

所属学会等 日本平和学会
国際政治学会
国際ジェンダー学会
日本フェミニスト経済学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー」(17 頁参照) / 「日本による親ジェンダー外交の展開: 安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析」(20 頁参照) / 「フェミニズム理論による新たな国家論の構築: ケア概念と安全保障概念の再構想から」(18 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』27 号特集国際シンポジウム「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」企画・開催コーディネーション(25 頁参照)
- ・ 国際セミナー「「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育」企画・コメント(34 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』26・27 号編集(60 頁参照)
- ・ 海外からの問合せ対応・客員研究員受け入れ対応

主な業績

《著書・論文》

2024 「ジェンダー主流化再考—グローバル・ガバナンスの中のフェミニスト知」『歴史評論』歴史化学協議会、2024 年 3 月号(第 887), pp: 60-68

2024 「フェミニスト外交」『ジェンダー事典』, pp:364-365. 丸善出版、2024 年 1 月

2023 「ジェンダー正義」日本平和学会編『平和学事典』pp:618-619. 丸善出版、2023 年 6 月

《翻訳書》

平山亮・佐藤文香・兼子歩編『男性学基本論文集』勁草書房(2024 年 1 月刊行)(第1・7・8・9章訳、4・5・6章監訳)

《学会報告・講演》

2023 国際政治学会研究大会 ジェンダー部会 コメント 11 月 11-13 日福岡

2023 日本フェミニスト経済学会「フェミニスト経済学ハンドブック翻訳・出版プロジェクト」オンライン読書会「Chapter 3: Feminist Political Economy」コメント、2023 年 12 月 15 日

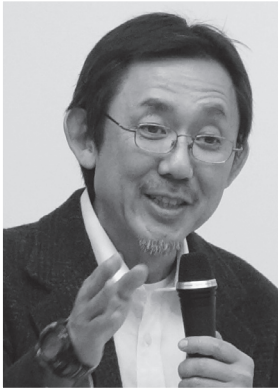
2024 「フェミニスト外交: ケアの倫理か男同士の絆か?」科学研究費基盤研究 B(課題番号: 23H03654)「フェミニズム理論による新たな国家論の構築: ケア概念と安全保障概念の再構想から」(研究代表者: 岡野八代)研究会報告 2024 年 3 月 1 日

《競争的資金》

科学研究費若手研究(課題番号: 23K17134)「日本による親ジェンダー外交の展開: 安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析」、2023~2027 年度、研究代表者

科学研究費基盤研究 B(課題番号: 23H03654)「フェミニズム理論による新たな国家論の構築: ケア概念と安全保障概念の再構想から」、2023~2026 年度(研究代表者: 岡野八代・同志社大学)、研究分担者

● 学内研究員



学内研究員 棚橋 訓

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程 比較社会文化学専攻

人間文化創成科学研究科 博士前期課程 ジェンダー社会科学専攻

専門分野: 文化人類学、オセアニア地域研究、ジェンダー文化論、
セクシュアリティ研究

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー



学内研究員 小玉 亮子

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程 人間発達科学専攻

人間文化創成科学研究科 博士前期課程 人間発達科学専攻

専門分野: 子ども社会学、教育学

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー

国際共同プロジェクト INTPART



学内研究員 石丸 径一郎

基幹研究院人間科学系・准教授

生活科学部心理学科

人間文化創成科学研究科 博士後期課程人間発達科学専攻発達臨床心理学領域

人間文化創成科学研究科 博士前期課程人間発達科学専攻発達臨床心理学コース

専門分野: ジェンダー心理学、認知行動療法

主な担当業務: ジェンダー研究所運営会議メンバー

『ジェンダー研究』編集委員

●客員研究員



客員研究員 足立 真理子

(本学名誉教授)

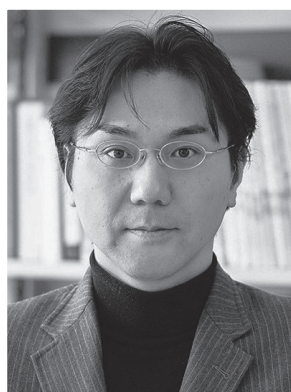
委嘱期間: 2023年4月1日~2024年3月31日

研究プロジェクトタイトル

新興アジアにおけるIT-BPOの国際分業の成立とジェンダー(科学研究費基盤研究B 課題番号:20H01468)

資本と身体ジェンダー分析:資本機能の変化と『放逐』される人々

●研究協力員



研究協力員 板井 広明

(専修大学経済学部准教授)

委嘱期間: 2023年4月1日~2024年3月31日

研究プロジェクトタイトル

資本と身体ジェンダー分析:資本機能の変化と『放逐』される人々

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

「ネオリベラリズムの侍女」としてのフェミニズムとその批判



研究協力員 平野 恵子

(横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授)

委嘱期間: 2023年4月1日~2024年3月31日

研究プロジェクトタイトル

日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究(科学研究費基盤研究B 課題番号: 23H00888)

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

インドネシア介護士資格創設からみる再生産労働者の「技能化」——日本への送出しを契機として



研究協力員 佐野 潤子

(東京家政学院大学現代生活学部現代家政学科教授)

委嘱期間: 2023年4月1日~2024年3月31日

研究プロジェクトタイトル

ノルウェーリサーチカウンシル INTPART 「ジェンダー平等/ダイバーシティ:ノルウェー・日本共同研究」

●研究協力員



研究協力員 仙波 由加里

(一般社団法人ドナーリンク・ジャパン代表理事)

委嘱期間:2023年4月1日~2024年3月31日

研究プロジェクトタイトル

ノルウェーリサーチカウンシル INTPART 「ジェンダー平等/ダイバーシティ:ノルウェー・日本共同研究」

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

配偶子ドナーの情報開示——誰のためのものか



研究協力員 フランス・ローズ・ハートライン

(JSPS 外国人特別研究員)

委嘱期間:2023年4月1日~2024年3月31日

参加イベントと報告タイトル

IGS セミナー「今日の日本におけるトランスジェンダー研究」

Trans Experience of Belonging in Japan



研究協力員 佐々木 真理

(実践女子大学教授)

委嘱期間:2023年4月1日~2024年3月31日

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

アメリカ女性作家とユートピアの表象



研究協力員 ペトリス・フラワーズ

(ハワイ大学マヌイ校教授)

委嘱期間:2023年4月1日~2024年3月31日

参加イベントと報告タイトル

IGS 研究協力員 研究報告会

Doing Diplomacy: Gender, Hierarchy, and Food in US-Japan Relations

●特任アソシエイトフェロー



特任アソシエイトフェロー 黒岩 漠

担当業務:ジェンダー研究所事務局統括

- ・ ジェンダー研究所全体予算管理
- ・ 『ジェンダー研究』編集員
- ・ 国際シンポジウム等運営
- ・ 各種報告書・データ作成 ほか

●アカデミック・アシスタント



アカデミック・アシスタント 稲垣 明子

担当業務:シンポジウム等運営関連

- ・ AIT ワークショップ事務
- ・ 研究所事業事務(大学本部各種調査対応含む)
- ・ 会計事務
- ・ IGS 史料電子化作業
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 梅田 由紀子

担当業務:文献収集・資料整理・附属図書館収蔵資料管理関連

- ・ IGS 史料電子化プロジェクト電子化作業管理
- ・ 研究所事業事務
- ・ シンポジウム等運営事務
- ・ 会計事務
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 関根 里奈子

担当業務:広報・情報機器管理

- ・ ウェブサイト・SNS・メールリスト等による情報発信・広報
- ・ シンポジウム・セミナー・研究会ポスター作成
- ・ オンラインイベント開催時の Zoom Webinar ホスト担当
- ・ 情報機器・ネットワーク管理 IGS ウェブサイト運営技術担当、情報更新作業 ほか

●アカデミック・アシスタント



アカデミック・アシスタント 滝 美香

主担当業務:会計事務関連

- ・ 研究所事業事務
- ・ シンポジウム等運営事務
- ・ IGS 史料電子化作業
- ・ 書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 花岡 奈央

主担当業務:広報・情報機器管理

- ・ ウェブサイト・SNS・メールリスト等による情報発信・広報
- ・ オンラインイベント開催時の Zoom Webinar ホスト担当
- ・ IGS ウェブサイト運営技術担当、情報更新作業
- ・ IGS セミナーの企画・運営 ほか



アカデミック・アシスタント 和田 容子

主担当業務:成果発信関連

- ・ 年次事業報告書編集
- ・ 『ジェンダー研究』日本語原稿校閲
- ・ 成果発信日本語原稿校閲
- ・ 葉・リーフレット企画制作
- ・ 会計事務
- ・ 研究所事業事務補佐 ほか

【資料】② 2023 年度研究プロジェクト一覧

1) IGS 研究プロジェクト

プロジェクト名	担当
「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究	申
東アジアの越境的女性運動	大橋
資本と身体ジェンダー分析	大橋・足立・板井
性・身体・再生産領域におけるジェンダー分析	嶽本
反公害/環境運動史におけるジェンダー分析	嶽本
グローバル・ガバナンスの変容と国家の再構築におけるジェンダー	本山
文学・芸術文化表象とジェンダー	戸谷

2) 外部資金による研究プロジェクト

プロジェクト名称	期間(年度)	担当
科学研究費基盤研究 B(課題番号:23H03654) フェミニズム理論による新たな国家論の構築:ケア概念と安全保障概念の再構想から	2023~2026	申 本山 (分担者)
科学研究費基盤研究 B(課題番号:23H00888) 日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究	2023~2025	大橋 平野 (分担者)
科学研究費基盤研究 B(課題番号:20H01468) 新興アジアにおける IT-BPO の国際分業の成立とジェンダー	2020~2023	大橋 足立 (分担者)
科研費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化 B) (課題番号:21KK0033) 人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー	2021~2024	大橋 (分担者)
科学研究費基盤研究 C(課題番号:19K12603) 香港における移住女性の再生産労働力配置:「グローバル・シティ」のジェンダー分析	2019~2023	大橋
科学研究費基盤研究 C(課題番号:23K11676) 「からゆきさん」にみる性・移動・再生産領域	2023~2025	嶽本
科学研究費若手研究(課題番号:23K17134) 日本による親ジェンダー外交の展開:安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析	2023~2027	本山

3) 海外の助成金によるプロジェクト

① ノルウェーリサーチカウンシル INTPART(戸谷・小玉・仙波・佐野)2019~2023 年度

② ノルウェー高等教育国際連携推進機関 Diku の UTFORSK(戸谷)2021 年 8 月~2025 年 7 月

【資料】③ 協力研究者一覧

氏名・所属	協力事業*	参照
【海外】		
レイチェル・アルソップ (Rachel Alsop) ヨーク大学・英	(セ)「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育	34 頁
ジャン・バーズレイ (Jan Bardsley) ノースカロライナ大学チャペルヒル校米	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
ジェニファー・ブロンラ (Jennifer Branlat) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	21 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	21 頁
	(連) INTPART プロジェクト	51 頁
キャロル・ハリントン (Carol Harrington) ヴィクトリア大学・ニュージーランド	(シ) グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力	25 頁
フランス・ローズ・ハートライン (France Rose Hartline) 日本学術振興会ポスドクフェロー ／2023 年度 IGS 研究協力員	(セ) 今日の日本におけるトランスジェンダー研究	38 頁
グロ・コースニス・クリステンセン (Guro Korsenes Kristensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	21 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	21 頁
	(連) INTPART プロジェクト	51 頁
日下部京子 (Kyoko Kusakabe) アジア工科大学院大学・タイ	(連) AIT ワークショップ	49 頁
キャサリーン・レノン (Kathleen Lennon) ハル大学・英	(セ)「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育	34 頁
プリシラ・リングローズ (Priscilla Ringrose) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	21 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	21 頁
	(連) INTPART プロジェクト	51 頁
カレン・アン・シャイア (Karen Ann Shire) デュースブルグ・エッセン大学・独	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
シリ・エイスレボ・ソレンセン (Siri Øyslebø Sørensen) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	21 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	21 頁
	(連) INTPART プロジェクト	51 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・国際フォーラム、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク

氏名・所属	協力事業*	参照
【国内】		
青山薫 (Kaoru Aoyama) 神戸大学	(シ) グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力	25 頁
井谷聡子 (Satoko Itani) 関西学院大学	(セ) 「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化の課題	31 頁
稲原美苗 (Minae Inahara) 神戸大学	(セ) 「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育	34 頁
影本剛 (Tsuyoshi Kagemoto) 立命館大学ほか	(セ) トランス排除を乗り越えるみんなのフェミニズム	28 頁
金井郁 (Kaoru Kanai) 埼玉大学	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
北原恵 (Megumi Kitahara) 大阪大学	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
工藤晴子 (Haruko Kudo) 神戸大学	(シ) グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力	25 頁
佐喜眞彩 (Aya Sakima) 立教大学ほか	(セ) 「戦後」沖縄フェミニズムにおける「ホーム」概念の変容とその可能性	32 頁
土井智義 (Tomoyoshi DOI) 明治学院大学	(セ) 「戦後」沖縄フェミニズムにおける「ホーム」概念の変容とその可能性	32 頁
平山亮 (Ryo Hirayama) 大阪公立大学	(セ) 「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化の課題	31 頁
松永典子 (Noriko Matsunaga) 早稲田大学	(セ) 「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化の課題	31 頁
	(セ) 「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育	34 頁
三浦まり (Mari Miura) 上智大学	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
嶺崎寛子 (Hiroko Minesaki) 成蹊大学	(シ) グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力	25 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・国際フォーラム、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク

氏名・所属	協力事業*	参照
【学内】		
石井クンツ昌子 (Masako Ishii-Kuntz) 理事・副学長・グローバル女性リ ーダー育成研究機構	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	21 頁
	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	21 頁
	(連) INTPART プロジェクト	51 頁
小林誠 (Makoto Kobayashi) 基幹研究院人間科学系	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	21 頁
	(連) INTPART プロジェクト	51 頁
天野知香 (Chika Amano) 基幹研究院人文科学系	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
水野勲 (Isao Mizuno) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
森義仁 (Yoshihito Mori) 基幹研究院自然・応用科学系	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
倉光ミナ子 (Minako Kuramitsu) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
石丸徑一郎 (Keiichiro Ishimaru) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁
岡村利恵 (Rie Okamura) グローバルリーダーシップ研究所	(国) Teaching Gender Equality and Diversity in Norway and Japan	21 頁
脇田彩 (Aya Wakita) 基幹研究院人間科学系	『ジェンダー研究』編集委員	60 頁

* (シ) シンポジウム、(セ) セミナー・国際フォーラム、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク

【資料】④ シンポジウム・セミナー一覧

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催国際シンポジウム		
12/8	国際シンポジウム グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力 【パネリスト】 キャロル・ハリントン(ヴィクトリア大学上級講師) 工藤晴子(神戸大学准教授) 嶺崎寛子(成蹊大学准教授) 【コメンテーター】 青山薫(神戸大学教授) 【モデレーター】 本山央子(IGS 特任リサーチフェロー) 【総合司会】 嶽本新奈(IGS 特任講師) 【開会挨拶・趣旨説明】 申琪榮(IGS 教授) 【開会挨拶】 戸谷陽子(IGS 所長／お茶の水女子大学教授) 【主催】 ジェンダー研究所 【言語】 日英(同時通訳有) 【参加者数】 144 名	25 頁
IGS 主催 IGS セミナー		
7/21	トランス排除を乗り越えるみんなのフェミニズム: 連帯という実践へ 【スピーカー】 影本剛(『被害と加害のフェミニズム #MeToo 以降を展望する』監訳者／立命館大学授業 担当講師ほか) 【パネリスト】 花岡奈央(ジェンダー研究所アカデミック・アシスタント) 森田真梨子(お茶の水女子大学大学院博士前期課程人間発達科学専攻) 【司会】 高橋奏音(お茶の水女子大学大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻) 鈴庄美苗(お茶の水女子大学科目等履修生／三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社公 共経営・地域政策部主任研究員) 【企画説明】 申琪榮(IGS 教授) 【主催】 ジェンダー研究所、「フェミニズム理論の争点」ゼミ 【後援】 解放出版社 【言語】 日本語 【参加者数】 57 名	28 頁
10/20	「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化の課題: Lennon&Alsop “Gender Theory in Troubled Times”を読む 【報告】 本山央子(IGS 特任リサーチフェロー) 【コメント】 井谷聡子(関西学院大学准教授) 平山亮(大阪公立大学准教授) 松永典子(早稲田大学准教授) 【主催】 ジェンダー研究所 【言語】 日本語 【参加者数】 7 名	31 頁
11/21	「戦後」沖縄フェミニズムにおける「ホーム」概念の変容とその可能性 【報告】 佐喜真彩(立教大学ほか非常勤講師) 【ディスカッサント】 土井智義(明治学院大学国際平和研究所助手) 【司会】 嶽本新奈(IGS 特任講師) 【主催】 ジェンダー研究所 【言語】 日本語 【参加者数】 47 名	32 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
1/12	<p>「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育:本質主義の克服に向けて</p> <p>【報告】 キャサリン・レノン(ハル大学名誉教授) レイチェル・アルソップ(ヨーク大学女性学センター講師)</p> <p>【コメント】 稲原美苗(神戸大学准教授) 松永典子(早稲田大学准教授) 本山央子(IGS 特任リサーチフェロー)</p> <p>【司会】 大橋史恵(IGS 准教授)</p> <p>【主催】 ジェンダー研究所</p> <p>【言語】 日英(同時通訳有)</p> <p>【参加者数】 166 名</p>	34 頁
1/25	<p>リプロダクティブ・ジャスティス(性・生殖・再生産をめぐる社会正義)の日本における政策課題と女性運動:墮胎罪・優生保護法を中心に</p> <p>【スピーカー】 大橋由香子(「SOSHIREN 女(わたし)のからだから」)</p> <p>【コメンテーター】 新山惟乃(お茶の水女子大学大学院博士後期課程ジェンダー学際研究専攻) 林美子(お茶の水女子大学大学院博士後期課程ジェンダー学際研究専攻)</p> <p>【司会】 高橋麻美(お茶の水女子大学大学院博士後期課程ジェンダー学際研究専攻)</p> <p>【主催】 ジェンダー研究所</p> <p>【言語】 日本語</p> <p>【参加者数】 28 名</p>	36 頁
2/20	<p>今日の日本におけるトランスジェンダー研究</p> <p>【報告】 フランス・ローズ・ハートライン(日本学術振興会ポスドクフェロー/2023 年度 IGS 研究協力員) 森田真梨子(お茶の水女子大学大学院博士前期課程人間発達科学専攻)</p> <p>【司会】 戸谷陽子(IGS 所長/お茶の水女子大学教授)</p> <p>【主催】 ジェンダー研究所</p> <p>【言語】 英語(同時通訳なし)</p> <p>【参加者数】 35 名</p>	38 頁
IGS 主催 IGS 研究会		
3/5	<p>IGS 研究協力員研究報告会</p> <p>【報告】 板井広明(専修大学准教授/IGS 研究協力員) Petrice Flowers(ハワイ大学マノア校教授/IGS 研究協力員) 佐々木真理(実践女子大学教授/IGS 研究協力員) 仙波由加里(一般社団法人ドナーリンク・ジャパン代表理事/IGS 研究協力員) 平野恵子(横浜国立大学准教授/IGS 研究協力員)</p> <p>【挨拶・コメント】 戸谷陽子(IGS 所長/お茶の水女子大学教授)</p> <p>【司会】 嶽本新奈(IGS 特任講師)</p> <p>【主催】 ジェンダー研究所</p> <p>【言語】 日英(同時通訳なし)</p> <p>【参加者数】 15 名</p>	40 頁

IGS 共催シンポジウム

- 3/2 出版記念シンポジウム 42 頁
『キャリアに活かす雇用関係論』を読んで・使う:ジェンダー視点を貫く授業
【司会進行】金井郁(埼玉大学)
【報告】駒川智子(北海道大学)
筒井美紀(法政大学)
禿あや美(跡見学園大学)
大槻奈巳(聖心女子大学)
申琪榮(お茶の水女子大学)
林亜美(神田外語大学)
田瀬和夫・真崎宏美(SDGパートナーズ)
【コメント】朴峻喜(立教大学)
佐野嘉秀(法政大学)
【主催】社会政策学会ジェンダー部会、金井郁研究室(埼玉大学)
【共催】ジェンダー研究所

IGS 共催研究会

- 10/28 国際ジェンダー学会 国際移動とジェンダー(IMAGE)分科会 43 頁
仏・旧植民地出身移民女性を中心化する予示的政治の空間:政治的連帯の隠された戦術
【報告】田邊佳美(東京外国語大学)
【司会】伊藤るり(津田塾大学)
【コメント】森千香子(同志社大学)
徐阿貴(福岡女子大学)
【主催】国際ジェンダー学会 国際移動とジェンダー(IMAGE)分科会
【共催】ジェンダー研究所、科研費(B)「日本における移住女性家事・ケア労働者の労働状況と主体性に関する発展的研究」(課題番号:23H00888)

グローバル女性リーダー育成研究機構主催 国際シンポジウム

- 3/15 女性学長国際シンポジウム 44 頁
アカデミアにおける女性のリーダーシップと DEI:女性学長が目指す 21 世紀に輝く大学教育
【開会挨拶】石井クンツ昌子(グローバル女性リーダー育成研究機構長/ジェンダード・イノベーション研究所長)
【来賓挨拶】鷹野景子(東京家政学院大学 学長)
矢口悦子(東洋大学 学長)
ポーラ・ジョンソン(ウェルズリー大学 学長(米))
【講演】パオラ・ベルナルディ(コッレージョ・ヌオーヴォ学長(伊))
エリザベス・ブラッドレー(ヴァッサー大学 学長(米))
佐々木泰子(お茶の水女子大学 学長)
【質疑応答モデレーター】山腰京子(お茶の水女子大学国際担当評議員/外国語教育センター長)
【閉会挨拶】西村純子(グローバルリーダーシップ研究所長)
【総合司会】戸谷陽子(ジェンダー研究所長)
【主催】お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構
(グローバルリーダーシップ研究所 ジェンダー研究所 ジェンダード・イノベーション研究所)
【言語】日英(同時通訳有)
【参加者数】対面:64名、オンライン:80名

IGS 後援

- 7/29 日本フェミニスト経済学会 2023 年度大会 45 頁
フェミニスト経済学とローカリティ:移動の自由と生き方の幅
【座長】小川真理子(東京大学)/大野恵理(獨協大学)
【報告】大野聖良(お茶の水女子大学)/日下部京子(アジア工科大学院大学)
佐野麻由子(福岡県立大学)/中島ゆり(長崎大学)
【コメント】堀内光子(公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム)
【座長コメント】大野恵理/小川真理子
【主催】日本フェミニスト経済学会
【後援】公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム、お茶の水女子大学ジェンダー研究所

【資料】⑤2023 年度新規収蔵図書・資料

・2023 年度、寄贈により以下の書籍が新規収蔵された。〔寄贈者名『書名』(著者名)〕(敬称略)

勉誠出版『アジアの出産とテクノロジー：リプロダクションの最前線』(白井千晶[編著])／タバックス『生きるためのフェミニズム：パンとバラと反資本主義』(堅田香緒里)／洲崎圭子『《産まない女》に夜明けはこない：ロサリオ・カステリャノス研究』(洲崎圭子)／自由国民社『LGBTQ の働き方をケアする本』(宮川直己)／金剛出版『親子は生きづらい：“トランスジェンダー”をめぐる家族の物語』(勝又栄政)／世界思想社『月経の人類学：女子生徒の「生理」と開発支援』(杉田映理, 新本万[編])／白澤社『事実婚と夫婦別姓の社会学』(阪井裕一郎)／中央公論新社『ジェンダー格差：実証経済学は何を語るか』(牧野百恵)／佐藤 直子『女性公務員のリアル：なぜ彼女は「昇進」できないのか』(佐藤直子)／金剛出版『女性のこころの臨床を学ぶ・語る：心理支援職のための「小夜会」連続講義』(笠井さつき, 笠井清登[編著], 松木邦裕 [ほか執筆])／集英社『性差 (ジェンダー) の日本史』(「性差の日本史」展)／みすず書房『生殖技術と親になること：不妊治療と出生前検査がもたらす葛藤』(柘植あづみ)／ドメス出版『沈黙の扉が開かれたとき：昭和一代女性たちの証言』(山村淑子, 旭川歴史を学ぶ母の会[編])／東京大学出版会『津田梅子：科学への道、大学の夢』(古川安)／明石書店『難民とセクシュアリティ：アメリカにおける性的マイノリティの包摂と排除』(工藤晴子)／大月書店『ハッシュタグだけじゃ始まらない：東アジアのフェミニズム・ムーブメント』(熱田敬子 [ほか編著])／京都大学学術出版会『東アジアの家族とセクシュアリティ：規範と逸脱』(小浜正子, 板橋暁[編])／日本女子大学『評伝成瀬仁蔵：女子高等教育から「社会改良」へ』(片桐芳雄[著])ミネルヴァ書房『論点・ジェンダー史学』(山口みどり[ほか編著])／鳥山純子『「私らしさ」の民族誌：現代エジプトの女性、格差、欲望』(鳥山純子)

・2023 年度、寄贈、購入によりジェンダー研究所から以下の書籍が新規収蔵された。〔『書名』(著者名)〕

『Gender, global health, and violence: feminist perspectives on peace and disease』(Tiina Vaittinen, Catia C. Confortini[編])／『Gender reckonings: new social theory and research』(James W. Messerschmidt[編])／『Her turn : why it's time for women to lead in America』(Vicki Donlan with Helen French Graves)／『Support the troops: military obligation, gender, and the making of political community』(Katharine M. Millar)／『Thai migrant sexworkers: from modernisation to globalisation』(Kaoru Aoyama)／『The ABC's of LGBT+』(Ashley Mardell)／『The Routledge handbook of gender and violence』(Nancy Lombard[編])／『沖縄とセクシュアリティの社会学：ポストコロニアル・フェミニズムから問い直す沖縄戦・米軍基地・観光』(玉城福子)／『「外国人嫁」の国際社会学：「定住」概念を問い直す』(大野恵理)／『キャリアに活かす雇用関係論』(駒川智子, 金井郁[編])／『ケアへの法哲学：フェミニズム法理論との対話』(池田弘乃)／『雇用形態間格差の制度分析：ジェンダー視角からの分業と秩序の形成史』(禿あや美)／『「社会」はどう作られるか?：家族・制度・文化』(姫岡とし子, 久留島典子, 小野仁美[編])／『女性の暮らしと生活意識データ集 2024』(三冬社編集制作部)／『民法論綱』抄録/男女同権論/婦女法律論(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);1)』(ベンサム[著], 何礼之[訳]/ミル[著], 深間内基[訳]/アモス[著], 鈴木義宗[訳])／『社会平権論』抄録(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);2)』(スペンサー[著], 松島剛[訳])／『政治談』抄録/西国婦人立志編(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);3)』(フォーセット[著], 渋谷慥爾[訳]/スタントン[著], 住田頼之助[訳])／『晩婚論/女子の本分/男女両性観』(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);4)』(オーゲル[著]; 田中太郎[訳]/ラスキン[著], 下田次郎[訳]/トルストイ[著], 平野臥龍[訳])／『男女と天才/恋愛と芸術と天才と』抄録(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);5)』(ワイニンゲル[著], 片山正雄[訳]/ショーペンハウエル[著], 角田浩々[編]/ニーチェ[著], 生田長江[訳])／『男女淘汰論』抄録(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);6)』(ダーウィン, ヘツ

ケル[著]; 山縣悌三郎[纂述]/ダーウィン[著], 田中茂穂[訳] / 『家族論(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);7)』(ボサンケー[著], 田中達[訳]) / 『婦人と経済(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);8)』(ステッツオン(ギルマン)[著], 大日本文明協会[編]) / 『過渡時代の婦人(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);9)』(ミーキン[著], 大日本文明協会[編]) / 『女性中心説(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);10)』(ウオード[著], 堺利彦[訳]) / 『婦人と寄生(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);11)』(シュライネル[著], 神近市子[訳]) / 『母性の復興(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);12)』(ケイ[著], 平塚明子[らいてう][訳]) / 『恋愛論(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);13)』(カーペンター[著], 山川菊栄[訳]) / 『性的特徴』(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);14) (エリス[著], 小倉清三郎[訳]) / 『恋愛の理学(世界女性学基礎文献集成(明治大正編);15)』(グールモン[著], 桃井京次[訳]) / 『婚姻及家族の原史について(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);1)』(クノウ[著], 服部之[総訳]) / 『婦人と家族制度/婦人労働革命 : 経済の進化における婦人の労働(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);2)』(コロンタイ[著], 山川菊栄[訳]/コロンタイ[著], 大竹博吉[訳]) / 『婦人の解放と政治/婦人に与ふ : レーニンは労働婦人になんと呼びかけたか』(『マルクス主義と婦人問題』抄録/(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);3)』(ドイツ共産党[編], 水野正次[訳]/レーニン, ツェトキン[著], 水野正次[訳]/リヤザノフ, レーニン[著], 新城信一郎[訳]) / 『革命と性生活/ソヴェート・ロシヤに於ける婦人の生活(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);4)』(ゲリマン[著], 広尾猛[訳]/ゼシカ・スミス[著], 神近市子[訳]) / 『英国婦人労働運動史(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);5)』(バーバラ・ドレーク[著]; 赤松克麿, 赤松明子[訳]) / 『解説社会主義と資本主義 : 有識婦人のために(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);6)』(ショウ[著]; 加藤朝鳥[訳]) / 『解説社会主義と資本主義 : 有識婦人のために(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);7)』(ショウ著 ; 加藤朝鳥[訳]) / 『女性に与ふる社会主義の修正 : バアナアド・ショウ氏に答ふ(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);8)』(ムジユリエ著 ; 楨義衛[訳]) / 『国際プロレタリア婦人問題/国際婦人運動の現勢/新世界の建設と婦人 : 国際協同組合婦人協会の現状(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);9)』(「インタナショナル」編集部[訳]/産業労働調査所[訳・編]/フロインドリツヒ[著], 日本消費組合婦人協会[訳]) / 『結婚の破産(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);10)』(カルヴァートン[著], 内山賢次[訳]) / 『友愛結婚(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);11)』(リンゼイ[著], 原田実[訳]) / 『婦人参政権の理論と実際(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);12)』(バルテルミイ[著], 星野辰雄[訳]) / 『母を救へ : 母性保護教程(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);13)』(パンカースト[著], 牧賢一, 磯村英一[訳]) / 『知られざる軍隊 : 戦時に於ける婦人動員(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);14)』(リューダース[著], 渡邊多恵子[訳]) / 『ナチス女性の生活/イタリアの女性とファシズム/ファシスタの母(世界女性学基礎文献集成(昭和初期編);15)』(キーファー[著]/イタリア大使館情報官室[著]/フィウミ[著], 小山栄次郎[訳]) / 『大学生がレイシズムに向き合って考えてみた: 差別の「いま」を読み解くための入門書』(一橋大学社会学部貴堂ゼミ生&院ゼミ生有志[著]) / 『男女共同参画社会データ集』(三冬社編集制作部) / 『「トラブル」としてのフェミニズム: 「とり乱させない抑圧」に抗して』(藤高和輝) / 『トランスジェンダー問題: 議論は正義のために』(ショーン・フェイ[著], 高井ゆと里[訳]) / 『狙われた身体: 病いと妖怪とジェンダー』(安井眞奈美) / 『Viva video!』(久保田成子, 濱田真由美 ほか[編]) / 『フェミニスト・シティ』(レスリー・カーン[著], 東辻賢治郎[訳]) / 『妇女百科全书(上)』(《妇女之友》杂志社編) / 『妇女百科全书(下)』(《妇女之友》杂志社編) / 『レイシズム運動を理解する: 理論、方法、調査』(キャスリーン・M・ブリー[著], 鈴木彩加[訳])

・以下の資料は、1981 年ごろ、日中友好協会や斎藤きえ氏から当時の女性文化資料館に寄贈され、保管されていたが、改めて整理のうえ、「文革期～改革開放初期 中国女性関係資料」として新規収集された。

『迎春花咲く中国：日本主婦同盟訪中記』(日本主婦同盟) /『プロレタリア文化大革命と中国の婦人たち』(中国研究所婦人研究会) /『私の見た中国と婦人たち』(甲藤将恵) /『女 16 人中国の旅：1974 年 2-3 月訪中記』(日中友好第二次婦人代表団[編]) /『子々孫々までの友好を!』(中国婦人代表団歓迎委員会[編]) /『国際婦人年世界会議資料：1975 年 6 月 19～7 月 2 日』(日中友好婦人連絡会 [編]) /『婦人解放の中国を旅して：1975 年春』(日中友好婦人活動家代表団) /『日中友好婦人の翼第一次訪中団報告書』(日中友好婦人の翼第一次訪中団派遣委員会) /『日中友好婦人の翼第二次訪中団報告書』(日中友好婦人の翼第二次訪中団派遣委員会編) /『1978 年日中友好婦人の翼訪中団報告書』(1978 年日中友好婦人の翼訪中団訪中報告書作成委員会) /『婦人は天の半分を支える：訪日・中国婦人代表団との懇談』(全日通家族会東京都連絡協議会) /『長沙から大慶へ：1977.5.24-6.13』(日中友好協会(正統)中央本部派遣日中友好婦人活動家訪中団[編]) /『中国の街から村から』(北陸東海婦人友好訪中団) /『七八・中国の春：七五〇〇キロの旅』(日中友好婦人訪中団) /『1978 年 12 月中国婦人代表団を迎えて』(東京都中国婦人代表団歓迎委員会) /『永遠 (とわ) の友情：友好と親善の四日間』(歓迎実行委員会事務局[編]) /『友好をたずさえて：第一回千葉県婦人代表訪中団：石家荘・太原・大同・北京』(第一回千葉県婦人代表訪中団編集委員会[編]) /『笑顔と拍手につつまれて：你好!! 再見!!』(日中友好第三次婦人の翼訪中団) /『80 年代を迎えて中国婦人はいま....』(菅沼久美 ほか[訳],古島琴子[解説・編集])

【資料】⑥ 史料電子化プロジェクト：電子化イベント一覧

女性文化資料館(1975-1985)/女性文化研究センター(1986-1995)イベント一覧				
年度	活動区分	開催日	イベントタイトル	登壇者
1977	講演会	1977/9/22	湯浅年子先生講演会	湯浅年子
(S52)	シンポジウム	1978/1/14	シンポジウム	
	研究会	1978/2/8	山川菊栄と女性解放思想(木下 研究会)	
	研究会	1978/3/6	社会学における家族	
	研究会	1978/3/22	山川菊栄研究	
1978	研究会	1978/6/6	女性史研究会 欧米の女性論	
(S53)	研究会	1978/7/27	女性史研究会 欧米の女性論	
1979	研究会	1979/5/24	女性の教育と女性問題	
(S54)	研究会	1979/10/4	アメリカ婦人労働の法的諸問題	
	シンポジウム	1980/1/26	総合科目「婦人問題」に関するシンポジウム	
	研究会	1980/2/12	中山みきの思想と歩み—陽気づくめの世界をめざして 50年—	吉原敬子
		1980/3/1	杉田和子、小島栄子、岩本のり子 於: 中村屋	
1980	研究会	1980/4/1	平安時代の相統制と女子相続権—『平安遺文』文書を中心として—	服藤早苗
(S55)	研究会	1980/4/23	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅰ〕	村松弘子ほか
	研究会	1980/5/29	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅱ〕	田中和子ほか
	研究会	1980/7/3	インドにおける女性の政治的役割	Chandra Mudaliar
	研究会	1980/10/18	〔コペンハーゲン婦人会議及び婦人差別撤廃条約について〕【婦人問題懇話会 講演会】	船橋邦子ほか
	研究会	1980/10/20	性役割とセクシズム	小林啓子
	研究会	1980/11/5	Feminist Literary Criticism からみた『砂の女』	Chigusa Kimura-Steven
	研究会	1980/12/25	目黒依子『女役割』について	田中和子ほか
	研究会	1981/2/12	アメリカの女性史	金子幸子ほか
	研究会	1981/3/27	フランス社会史の動向と女性史	小島智恵
1981	研究会	1981/5/27	人類学者のみた個人的アメリカ女性史	Frederica de Laguna
(S56)	研究会	1981/5/29	Role's of Women's College	Frederica de Laguna
	研究会	1981/6/12	『性の署名』について(1)	内藤和美ほか
	研究会	1981/7/4	『性の署名』について(2)	平川和子
	研究会	1981/7/12	高群逸枝の婚姻・家族形態研究の意義について	関口裕子
	研究会	1981/9/9	カナダの女性学について	Patricia Morley ほか
	研究会	1981/10/16	家族・親族理論研究動向	田中真砂子
	研究会	1981/11/25	兼業農家女性の就労形態の変容—長野県諏訪地方の場合—	久保桂子
	研究会	1981/12/15	オーストラリアと日本の婦人運動／ニューージーランドの女性の地位について	Romanovsky Ulrike ほか
	研究会	1982/1/27	千葉県における廃娼運動—国防婦人会との関連において—	船橋邦子
	研究会	1982/3/24	近現代日本の社会教育と婦人団体	木下 ユキエ
1982	研究会	1982/4/23	女子大学の存在意義を考える—アメリカ・フランス・インド等の各国を見て—	広中和歌子

(S57)	研究会	1982/5/22	女性学研究会 井上輝子、目黒依子		
	研究会	1982/6/4	近世における女性と家族	林玲子ほか	
	研究会	1982/10/22	平安時代の養子制度について—日本家族の特質をテーマに—	William McCullough ほか	
	研究会	1982/11/24	バングラディッシュの女性について	武藤敦子	
	研究会	1982/12/13	Consort, mother, beloved, "Vamp"; the symbolic depiction of womanhood in Indian calendar art	Patricia Uberoi ほか	
	研究会	1983/1/24	出産の社会史—家族の近代化に関連して—	落合恵美子	
	研究会	1983/2/15	韓国の女性について	鄭金子ほか	
	研究会	1983/3/22	『巫女の文化』について—古代女性史の見直しのために—	倉塚華子ほか	
1983	研究会	1983/5/30	ガブリエラ・ミストラルと『女性読本』について	田村さと子	
(S58)	研究会	1983/6/30	Japanese-German Marriage in Japan: a tentative approach	Irene Hardach-Pinke	
	研究会	1983/7/29	『性の深層』をめぐって—現代西ドイツの女性運動との関連で—	大沢三枝子	
	研究会	1983/9/26	『妻と夫の社会史』について	山本郁子ほか	
	研究会	1983/11/1	女性の側からジェンダーを考える	若井文恵ほか	
	研究会	1983/11/21	Intellectual Differences between Woman and Man "Inherited or Acquired?"	Virginia Mann ほか	
	研究会	1983/12/15	機械女工たちの近代	古庄正	
	研究会	1984/2/22	『婦女新聞』の出發	石崎昇子ほか	
	研究会	1983/3/13	フィリップ・アリエス研究—子ども・教育・女性—	波多野完治ほか	
1984	研究会	1984/4/24	日本の離婚調停に関する研究	Taimie Bryant	
(S59)	研究会	1984/5/15	『更級日記』作者の宗教的コンプレックス	高木きよ子	
	講演会	1984/5/31	お茶の水女子大学百年史刊行記念講演会	林太郎ほか	
	研究会	1984/6/20	キリスト教文化と女性	杉田弘子	
	研究会	1984/7/6	The Function of Libraries, Women' Centers, and "Women's Studies" in doing Feminist Research	Helen Wheeler ほか	
	研究会	1984/10/23	『私生子』概念の発生と消長—明治期を中心とする法制・歴史と実際の扱い—	田中弘子	
	研究会	1984/11/20	Woman and Nature	Susan Griffin ほか	
	研究会	1984/12/11	中国女性史研究—小野和子『中国女性史』を読んで—	加藤直子	
	研究会	1985/2/25	樋口一葉の文学—『十三夜』と『人形の家』の比較を中心に—	フランススカ・フンチカ	
	研究会	1985/3/14	近世関東農村における女性労働者の存在形態—年季・日雇奉公人の分析から—	青木道子	
1985	研究会	1985/4/26	ユートピアと性	倉塚平	
(S60)	研究会	1985/5/29	西欧近代の結婚観—キルケゴールをめぐって—	野村明代	
	研究会	1985/6/12	清代において模範とされている女性について	Susan Mann	
	研究会	1985/6/13	食事が子供の身体と心に与えるもの		
	研究会	1985/7/4	韓国女性の政治的、社会的地位	白京男	
			1985/10/5	第三世界の女性たちと私たち—ナイロビ報告(日本婦人問題懇話会)	
	研究会	1985/10/28	『源氏物語』にみる婚姻と居住形態と相続—光源氏と紫の上と明石君をめぐる—視角—	木下ユキエ	
	研究会	1985/11/15	主婦とテレビ	香取淳子	
	シンポジウム	1985/11/27	産むことを考える	加藤シヅエほか	
	研究会	1985/12/18	イタリア女性解放思想の歴史と今日的な段階—19 世紀末から現在に至る主要な事項—	Argnani Fausta	

	研究会	1986/1/16	スイスにおける女性史研究—論文集『女性』と『イティネラ』にみる女性史家の研究動向—	佐藤るみ子
	研究会	1986/3/3	「円地文子論—"自然な女"の周辺—」	宮内淳子
1986	研究会	1986/4/25	フランス現代女性思想の流れ—ボーヴォワール・クリスティヴァ・イリガライ	棚沢直子
(S61)	研究会	1986/6/24	日本文化における『悪女』	Valerie・L・Durham
	研究会	1986/10/3	航空史における女性の役割—ドイツ女性スポーツ史の視角から	Gertrud Pfister
	研究会	1986/11/20	韓国の家族について	徐炳淑
	研究会	1986/12/8	バングラディッシュの女性—女性政策の視点から—	Jowshan Ara Rahman (ほか)
	研究会	1987/1/14	中東世界の女性—イスラームの原理と実像	黒田美代子
	研究会	1987/3/3	マレーシアの女性	Goh Beng Lan
1987	研究会	1987/4/23	公民の妻/青年団における女子活動の設立	渡辺洋子(ほか)
(S62)	研究会	1987/5/15	Impact of Economics & Technological Change on Women	Tamara・Hareven
	研究会	1987/6/24	円地文子の描いた女性像	アイリーン・マイカルス・アダチ
	研究会	1987/7/14	家計構造の長期的変容	田窪純子
	研究会	1987/8/25	舞踊と語り……祖母の語りとその姿	江川まゆみ
	研究会	1987/10/26	ラテン・アメリカの女性像	三田千代子
	研究会	1987/11/25	和泉式部と仏教	小野美智子
	研究会	1987/12/16	タイ社会における女性の役割	小野沢・ニッタヤー
	研究会	1988/2/10	日本における転勤の問題とデュアル・キャリア・ファミリーについて	青木由紀
	研究会	1988/3/10	新しい家庭科をめざして	西谷洋子
	研究会	1988/3/10	家庭科における消費者教育	小関禮子
1988	研究会	1988/4/11	Income Generation of Women in Rural Bangladesh	Kohinoor Begum
(S63)	研究会	1988/5/26	South Asian Women: Challenges & Prospects	Urmila Phadnis
	研究会	1988/6/22	Some Implications of Women's Status in China	Beverly Y. B. Hong
	研究会	1988/7/8	性役割意識に関連する韓国人の価値観	金炳端
	研究会	1988/9/7	こどもの虐待と放置—小児科の全国調査から—	内藤和美
	研究会	1988/11/25	フェミニスト研究の軌跡—Stanley & Wise の『フェミニズム社会科学に向かって』が提起するもの—	矢野和江
	研究会	1989/2/21	アジアにおける女性と仕事	Noeleen Heyzer
	研究会	1989/3/7	日本のフェミニストの意識と alternative な生活スタイル	ゴー・ベン＝ラン
1989	研究会	1989/4/5	男女平等教育の実践に向けて	Peggy McIntosh
(H1)	研究会	1989/4/14	Education of Scientist who Happen to Be Women	Emily L. Wic
	研究会	1989/6/1	鎌倉期の乳父について—その存在形態と乳母との関連	秋山貴代子
	研究会	1989/6/12	Modernisation en Iran et Le Changement Socio-cultural de Role de la Femme	Nasrin F. Hakami
	研究会	1989/7/17	Problems of Homeless Children in India	Rajani Paranjipe
	合評会	1989/9/11	原ひろ子著『ヘアー・インディアンとその世界』について	田中真砂子
	研究会	1989/10/4	スペイン内戦下の女性たち	秋山充子
	研究会	1989/11/17	Women and / in Media	Ann Simonton
	シンポジウム	1989/12/13	お茶の水女子大学留学生懇談会	

	シンポジウム	1989/11/29 ,12/20,199 0/3/19	特定研究「女性のライフコースの多様化と女子大学の役割」	Peggy McIntosh
1990 (H2)	シンポジウム	1990/4/23, 24	『母性』をめぐる日独シンポジウム	館かおるほか
	研究会	1990/5/18	Systematic Planning for Women's in Development and Activities	Barbara Knudson
	研究会	1990/6/14	マレー農村社会における性役割—東南アジアの伝統とイスラム規範のほざまにて	花見慎子
	研究会	1990/6/26	Women's Mothering and Working Roles in Japan and the United States	Brenda Bankart
	研究会	1990/9/25	中央ユーラシア遊牧民の歴史にみる女性像	宮脇淳子
	研究会	1990/10/23	福沢諭吉の女性論	杉原名穂子
	研究会	1990/11/22	日本近代女性の自伝を読む	Ronald P. Loftus
	研究会	1990/12/5	精神的母性	Elisabeth Gössmann
	研究会	1991/3/13	女性の自然科学研究者の進路決定要因の研究について	ビヴァリー・ゲッツイ
1991 (H3)	研究会	1991/5/29	大正時代の『令女会』の歌曲—女学生の歌唱と女学生向け創作歌曲の一考察	坂本麻実子
	研究会	1991/6/10	An Anthropological Study of Gender Science in Japan & U.S.	Sharon Traweck
	研究会	1991/6/18	To a Safer Place	Dane Raphael
	研究会	1991/10/4	Woman's Movement in Comparative Perspective	Ilse Lenz
	研究会	1991/10/9	Women of the Tlingit Society in Historical Perspective	Frederica de Laguna
	研究会	1991/10/31	Confusionism and Modern Chinese Women's Family Life	黄育馥
	研究会	1991/11/15	フェミニズムの方法としてのメモリーワーク	Frigga Haug ほか
	研究会	1991/11/19	クリスティヴァ『女の時間』を読む	棚沢直子
	研究会	1991/12/19	The Situation of the Swedish Women Today	Malin Ronnblom
	研究会	1992/1/30	自治体における女性学	栗園千恵子
	研究会	1992/2/12	中国の少数民族における女性	劉耀荃
	研究会	1992/2/20	アメリカ女性学の現段階: 女性学の理論家と県空者養成システム	三宅義子
	研究会	1992/3/13	『女性と労働』日独シンポジウム	
1992 (H4)	研究会	1992/4/15	Women's Studies in Canada	Naomi Black
	研究会	1992/4/20	Sexuality and Reproduction in Women's Utopian Dystopian Literature	Blaine Martin
	研究会	1992/6/19	湯浅年子博士資料的研究の歩み	松田久子
	研究会	1992/6/22	ジェーン・アダムスの思想と行動	米澤正雄
	研究会	1992/7/20	女性と開発をめぐる諸問題	村松安子
	研究会	1992/10/26	沖縄における女性の就労と性役割分業観	国吉和子
	講座	1992/11/21 ,28,12/5	次世代育成力を考える	原ひろ子ほか
研究会	1993/1/28	南インド・ナガラッターールにおける親族・婚姻及び女性	西村祐子	
1993 (H5)	研究会	1993/5/18	中国における職業分化に伴う女性の価値観と行為方式の変化について	沙蓮香
	研究会	1993/6/24	女性と表彰—"模範嫁"表彰の聞き取り調査をめぐって—	熊澤知子
	研究会	1993/7/16	ベルリンの老人ホームとケア付き集合住宅	大澤真理
	研究会	1993/9/22	女性の自己表現と文学—野上彌生子におけるフェミニズムと形式—	藤田和美
研究会	1993/10/15	—政治学者のみたジェンダー研究—オリエンタリズムとの関連—	石田雄	

	特定研究懇談会	1993/11/13	Women in Higher Education — A case of the University of California USA —	Dr.Maresi Nerad
	研究会	1993/11/14	変容する男性社会—労働、ジェンダーの日独比較	高島道枝ほか
	研究会	1993/12/3	Gender,Justice and Therapy: Can One Be a Feminist and Practise Family Therapy?	Jan McDowell
	シンポジウム	1993/12/14,15	女性とメディア	
	シンポジウム	1994/1/20	特定研究「ライフコースの多様化の時代における大学教育と女性」	
1994 (H6)	研究会/シンポ	1994/4/7	エコロジーとフェミニズムを考える	Maria Mies ほか
	研究会	1994/6/1	オーストラリア女性史研究—女性史からフェミニスト史へ	Vera Mackie
	研究会	1994/7/27	いけ花と日本女性: 知の発達・地から・ジェンダー	飛田尚弥
	研究会	1994/8/29	Feminist Studies and Qualitative Empirical Methods: the Case of Sex Tourism and Traffic in Women	Ilse Lenz
	研究会	1994/9/27	Internationalization and Gender Relations: Theoretical Approaches	Ilse Lenz
	研究会	1994/10/31	家族法改正をめぐる文献とその論点	海妻径子
	シンポジウム	1994/11/2	学内共同教育研究プロジェクト・大学における女性学及び女性学研究センターの役割について	
	研究会	1995/1/27	How to combine Parenthood and Work?—Policies on Gender in Sweden—	Rita Liljestrum
	研究会	1995/2/21	Current Trends in Women's Studies in India: Gender,Development and Empowerment/	Malavika Karlekar ほか
	研究会	1995/3/1	Women, Education, and Development in Bangladesh	Saleha Begum
1995 (H7)	研究会	1995/4/13	日本の女性国会議員—その形成と構造	大海篤子
	研究会	1995/5/12	姉さん女房の社会学	Ursula Richter
	研究会	1995/6/16	女性と政治	Elic Plutzer
	研究会	1995/7/3	遺伝子とジェンダー	Joan Hideko Fujimura
	研究会	1995/9/18	アメリカのフェミニスト法理論の現在	Frances Olsen
	研究会	1995/10/13	社会主義フェミニズムの観点から見る『雁』	玉枝 Prindle
	研究会	1995/11/24	エコロジーとフェミニズム	山本良一
	シンポジウム	1995/12/2	湯浅年子メモリアルカンファレンス—エレヌ・ランジュヴァン・ジョリオをむかえて	Hélène Langevin-Joliot
	研究会	1995/12/19	The place of women in Egyptian Society	Samia Khedr Saleh
	研究会	1996/2/14	ネパールにおける Management と WID の視点	福土恵理香
研究会/シンポ	1996/3/19	日本の学問研究とジェンダー	館かおる	

【資料】⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構規則第 4 条第 2 項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下「研究所」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 研究所は、グローバル女性リーダー育成研究機構に附属する研究所として、ジェンダーに関する総合的、国際的な研究及び調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資することを目的とする。

(研究及び業務)

第 3 条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) ジェンダーに関する国際的研究及び調査
- (2) ジェンダー研究に関する教育研修
- (3) ジェンダー研究に関する文献・資料の収集および整理
- (4) ジェンダー研究に関する情報の提供
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第 4 条 研究所は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 研究所長
- (2) 教員
- (3) 研究員
- (4) その他学長が必要と認めた職員

2 研究所に、次に掲げる者を加えることができる。

- (1) 副研究所長
- (2) 特別招聘教授
- (3) 特任職員
- (4) 客員研究員
- (5) 研究協力員

(研究所長)

第 5 条 研究所長は、男女共同参画を担当する副学長並びに基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員(以下「系会議構成員」という。)である教授のうちから学長が任命する。

2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。

3 研究所長の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副研究所長)

第 6 条 副研究所長は、系会議構成員のうちから、研究所長が指名する。

2 副研究所長は、研究所長から指定された業務を掌理する。

3 副研究所長の任期は、1 年とする。ただし、再任を妨げない。

4 副研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第7条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、基幹研究院に所属する教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第8条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第9条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第10条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、ジェンダー研究所運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

(2) 副研究所長

(3) 第4条第1項第2号に掲げる教員

(4) 第4条第1項第3号に掲げる研究員のうちからグローバル女性リーダー育成研究機構長(以下「研究機構長」という。)が指名する者

(5) その他研究機構長が必要と認めた者

3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。

4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。

5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 本条に定めるほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 研究所の事務は、企画戦略課が行う。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則は、廃止する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

【資料】⑧『ジェンダー研究』編集方針・投稿規定

《編集方針》

1. 『ジェンダー研究』(以下、本誌)は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
2. 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
3. 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
4. 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学术论文の国内外への頒布を進める。
5. 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
6. 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

《投稿規定》

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
- 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する、原則として修士号取得相当以上とする。
- 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。なお、この規程に違反した場合、新たな投稿を受け付けられないなど、しかるべき措置をとる。
- 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
- 5 投稿論文は、
 - ・日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 20000 字以内
 - ・英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて 8500 ワード以内
 - ・なお、1 図表 500 字相当、1 ページを要する場合は 1000 字相当とする
 - ・挿図の場合は、1 ページあたり 1000 字、刷り上がり 20 頁内に入ることを原則に、およそ 20 点までとして全体を構成する
 - ・挿図に用いる図版の掲載許可については、投稿者が自らの責任において然るべき手続きをとる。なお許可に要する費用は、投稿者負担とする。

* 定められた字数などの制限を超えた場合、形式において甚だしく不備がある場合には、受理できない。
- 6 論文の提出時には、本文・図表・参考文献のほかに、以下についても提出すること。
 - 6-1 表紙。論文タイトル(副題も含む)と投稿者氏名・所属を、日本語と英語とで記す。(タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。)
 - 6-2 日本語要旨。400 字以内。
 - 6-3 英語要旨。200 ワード以内。ネイティブチェック済のもの。
 - 6-4 キーワード。日本語・英語ともに 5 語以内で、それぞれの要旨の後に記載する。なお、執筆者を特定するようないかなる情報(謝辞、科研番号)も記載してはいけない。

資料

7 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、メール添付にて送付すること。

日本語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72482244933459>

英語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72488720633461>

8 本文と要旨などのテキストのデータは Word と PDF のファイルにし、図、表のデータは Word または Excel と PDF にし、写真は JPEG と PDF のファイルにして提出すること。

9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。

10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める<『ジェンダー研究』執筆要項>に従う。英語の投稿論文は *Style Sheet for Journal of Gender Studies* とする。

11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。ただし、本投稿規定・執筆要項や本誌の趣旨に合致しない原稿、また学術的論文としての水準を著しく達していないと判断された場合、審査の対象外とする場合もある。

12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、修正対応表をつけて、メールにて提出しなければならない。

13 投稿者による校正は原則 2 回までとする。

14 投稿後、投稿論文を取り下げる場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。

15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。

16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

改訂

1. 2017 年 10 月 27 日制定

2. 2021 年 5 月 14 日改訂

『ジェンダー研究』 web サイト <https://www2.igs.ocha.ac.jp/gender/>

【資料】⑨ ジェンダー研究所ウェブサイト プライバシー・ポリシー

1. 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下、本研究所)ウェブサイトでは本研究所のイベント開催に際して、イベント参加申込者の個人情報(氏名等により特定の個人を識別できるもの)を、本ウェブページ上にて収集することがあります。
2. 収集した個人情報はイベント開催における会場手配や安全確保、配布資料作成の参考として利用するものであり、本研究所のイベント開催通知以外では利用することはありません。
3. 収集した個人情報の管理は、ウェブ担当者が漏洩、紛失、改竄等に対する安全対策を行うことで保護し、その責任は本研究所所長が最終的に負います。
4. 本研究所では、プライバシー・ポリシーを改定することがあります。改定する場合は、当ウェブサイトでお知らせします。

附 則

このプライバシー・ポリシーは、2015 年 7 月 1 日から施行します。

国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構
ジェンダー研究所（IGS）
2023（令和5）年度事業報告書

編集担当：申琪榮・和田容子

発行：お茶の水女子大学ジェンダー研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

Tel: 03-5978-5846

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<https://www2.igs.ocha.ac.jp>

2024年7月作成

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学 ジェンダー研究所

Institute for Gender Studies, Ochanomizu University
2-1-1 Otsuka, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610 Japan

TEL: 03-5978-5846 FAX: 03-5978-5845

igsoffice@cc.ocha.ac.jp

<https://www2.igs.ocha.ac.jp>

